

Wir müssen durch viel Trübsal in das
Reich Gottes eingehen BWV 146
Kantaten zum Sonntag Jubilate

1. Sinfonia

2. Chor

„Wir müssen durch viel Trübsal in das
Reich Gottes eingehen.“

3. Arie (Alt)

Ich will nach dem Himmel zu,
nach dem Himmel will ich zu,
Schnöde Sodom, ich und du
Sind nunmehr geschieden.
Meines Bleibens ist nicht hier,
Denn ich lebe doch bei dir
Nimmermehr in Frieden.

4. Rezitativ (Sopran)

Ach! wer doch schon im Himmel wär!
Wie dränget mich nicht die böse Welt!
Mit Weinen steh ich auf,
Mit Weinen leg ich mich zu Bette,
Wie trüglich wird mir nachgestellt!
Herr! merke, schaue drauf,
Sie hassen mich, und ohne Schuld,
Als wenn die Welt die Macht,
Mich gar zu töten hätte;
Und leb ich denn mit Seufzen und Geduld
Verlassen und veracht',
So hat sie noch an meinem Leide
Die größte Freude.
Mein Gott, das fällt mir schwer.
Ach! wenn ich doch,
Mein Jesu, heute noch
Bei dir im Himmel wär!

5. Arie (Sopran)

Ich säe meine Zähren
Mit bangem Herzen aus.
Jedoch mein Herzeleid
Wird mir die Herrlichkeit
Am Tage der seligen Ernte gebären.

カンタータ第 146 番 (われらは多くの苦しみをへて)

復活祭後第 3 主日

聖句 書簡第 1 ペトロ 2,11-20

福音書ヨハネ 16,16-23

歌詞台本作者不詳

1. シンフォニア

2. 合唱

「わたしたちが神の国に入るには、多くの苦しみを
を経なくてはならない。」 [使徒言行録 14,22]

3. アリア (アルト)

わたしは天国へ行くのだ。
わたしは行くのだ天国へ。
けがらわしいソドムよ、わたしとおまえは
今や決別したのだから。
わたしの宿はここではない、
なぜならわたしはおまえのところで暮らすかぎり
けっして平和では居られないのだから。

4. レチタティーヴォ (ソプラノ)

ああ、だれがすでに天国にいるのだろうか。
邪悪な世はわたしを天国へと急がせないのだろうか。
わたしは泣きながら立ち上がり、
わたしは泣きながらベッドに横たわっている。
どんな偽りごとがわたしを待ち受けているのだろうか。
主よ、お気づき下さい、それに目を向けて下さい。
世の人々は罪の意識もなしに私を憎んでいます、
あたかもこの世は、わたしを殺すかもしれないような、
強い力を持っているようです。
そしてわたしがため息と忍耐をもって生きたとしても
見捨てられ、軽蔑されてしまうのです、
このようにやつはわたしの苦しみを
大いに喜んでいるのです。
わが神よ、それはわたしには辛いことです。
ああ、わがイエスよ
もしわたしが今日にでも
あなたのおそば、天国にいられるのなら……。

5. アリア (ソプラノ)

わたしは心細げに、
涙の種を蒔くのです。
けれどもわたしの心の苦しみは
至福の収穫の日に
わたしに栄光をもたらすでしょう。

6. Rezitativ (Tenor)

Ich bin bereit,
Mein Kreuz geduldig zu ertragen;
Ich weiß, daß alle meine Plagen
Nicht wert der Herrlichkeit,
Die Gott an den erwählten Scharen
Und auch an mir wird offenbaren.
Itzt wein ich, da das Weltgetümmel
Bei meinem Jammer fröhlich scheint.
Bald kommt die Zeit,
Da sich mein Herz erfreut,
Und da die Welt einst ohne Tröster weint.
Wer mit dem Feinde ringt und schlägt,
Dem wird die Krone beigelegt;
Denn Gott trägt keinen nicht mit Händen in
den Himmel.

7. Arie (Duett: Tenor und Baß)

Wie will ich mich freuen, wie will ich mich
laben.
Wenn alle vergängliche Trübsal vorbei!
Da glänz ich wie Sterne und leuchte wie
Sonne,
Da störet die himmelische selige Wonne
Kein Trauern, Heulen und Geschrei.

8. Choral

Freu dich sehr, o meine Seele,
und vergiß all Not und Qual,
weil dich nun Christus, dein Herre,
ruft aus diesem Jammertal.
Aus Trübsal und großem Leid
sollst du fahren in die Freud,
die kein Ohre hat gehört
und in Ewigkeit auch währt.

6. レチタティーヴォ (テノール)

わたしは忍耐強く
自らの十字架を担う覚悟ができています。
わたしは、知っています、
私の苦しみのすべては、
神に選ばれた群とわたしに賜る栄光に
比べれば取るに足りないことだと。 [ローマ 8,18 参照]
いまわたしは泣いています、なぜなら世の中の騒がしさが
わたしの嘆きを喜んでいるようだからです。
でも、まもなくその時がやってくれば、
わたしの心が喜び、
(逆に)世の中が、慰めもなく泣くのです。
敵と戦い、それを打ち破る者には、
栄冠が与えられるのです。
ということは神が自らの御手を使わないで天に
上げられたものは誰もいないのです。
(誰でも皆神によって天に上げられるのだ)

7. アリア (二重唱、テノールとバス)

どれだけわたしは喜ぶだろうか、どれだけ元気を回復するの
だろうか、
すべてのつかの間の苦しみが過ぎ去った時には、
その時わたしは星のように輝き、太陽のように
光るのだ、
そして、天国における至福の喜びを妨げるような
悲しみや、不安や、叫びはすべて無くなるのだ。

8. コラール

大いに喜びなさい、私の魂よ、
そしてすべての悩みと苦しみを忘れなさい。
今、あなたの主であるキリストが、
この悲嘆の谷から呼びかけておられるのだから。
お前よ、苦しみと大きな悲しみから、
喜びへと移りなさいと。
まだ誰も聞いたことがないような、
永遠に続く喜びの中へ。

[Christoph Demantius 作詞のコラール(1620)]